

群 教 セ	G11 - 03
	令 7.290 集
	学級活動

# 学級会に主体的に参画し、

## 協調的な話し合いを図る生徒の育成

— 事前準備と本時における教師の生成AIの利活用と  
手立ての工夫を通して —

特別研修員 越澤 昂洋

### I 研究の概要

#### 1 主題設定の理由

学習指導要領では特別活動の意義として、多様な人々と協働し、社会の形成に主体的に参画する資質・能力を育むことを重視している。特に集団活動においては、合意形成を通して集団や自己の生活上の課題を解決する力の育成が不可欠とされている。また、文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」に準拠しつつ、群馬県教育委員会は、GIGAスクール構想推進のもと、生成AIを含むデジタル技術を教育に積極的に利活用し、生徒の主体的・対話的な学びを促進する方針を打ち出している。本研究は、これらの方針を踏まえ、現代の技術を活用した、学級会への主体的参画と協調的な学びの実現を目指すものである。

本学級の生徒は、学級会の議題に対して自分の意見をもつことができるというよさが見られる。しかし、学級会へ向けての議題設定や進行計画の作成など、事前準備に多くの時間を要することが、計画委員や教師の負担となっている。さらに、学級会では議題に対する一人一人の意見を共有することができなかつたり、意見集約に時間がかかり、合意形成の場面で十分な時間を確保したりすることができていない。これにより、学級全体の多様な意見が十分に議論されず、一部の発言力のある生徒の意見でまとまる傾向がある。その結果、多くの生徒が「自分の意見が反映されない」という感覚を抱き、全員が納得感をもつ協調的な話し合いを図ることのよさを経験させることができていないことが課題であった。

これらの課題を解決するため、主題を「学級会に主体的に参画し、協調的な話し合いを図る生徒の育成」とした。また、研究の手立てとして、生成AIを活用した「主体的な参画を生むための教師と計画委員による事前準備」および「『個々の意見集約の効率化』と『集約された意見の可視化』による協調的な話し合い」の二つを設定した。

これにより、事前準備における計画委員の心理的・時間的な負担を減らし、生徒自らが進行の見通しをもち、主体的に活動できるようにする。また、本時では生成AIによる意見集約をすることで、全員の意見を議論の土台に乗せ、心理的安全性を確保する。生成AIの利活用により生み出した時間を、生徒が互いの異なる考えを深め合う話し合いに充てることで、自らの判断で合意形成を図ろうとする主体的な参画を促し、協調的な話し合いができる生徒を育成することを目指した。

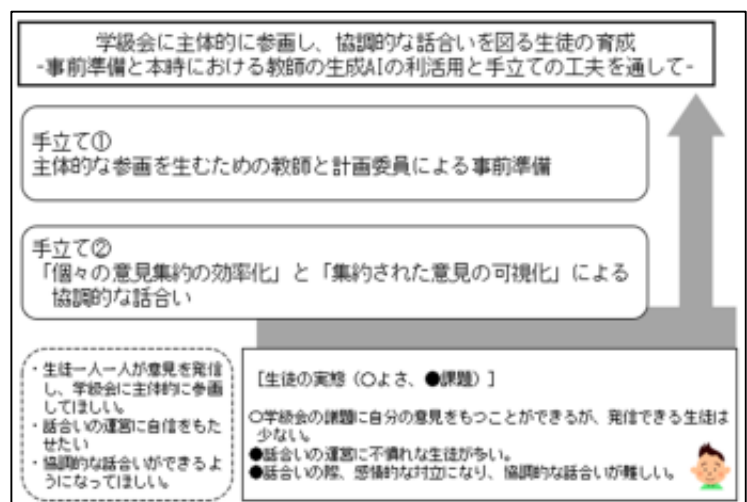


図1 研究のイメージ

## 2 具体的な手立て

### 手立て1 主体的な参画を生むための教師と計画委員による事前準備

従来、計画委員は議題決定に向けた意見集約等に労力と時間を費やしており、授業の進行計画の立案が不十分になる傾向にあった。その結果、計画委員と教師の負担が増えるという課題があった。そこで、事前準備に生成AIを活用することにより、計画委員は進行計画の作成に注力できるようになり、生徒による主体的な準備が可能となると考える。

### 手立て2 「個々の意見集約の効率化」と「集約された意見の可視化」による協調的な話し合い

生成AIによる「意見の表」は、生徒の意識を「誰の意見か」という対人関係から、「どうすれば課題が解決するか」という方向へ向かわせる役割を果たすと考える。学級内の意見やアイデアを客観視できることで、生徒は一方的に主張するのではなく、異なる意見を整理して共通の着地点（妥協点）を見い出し、納得できる結論（合意）を導き出すことができると考える。

## II 実践例

### 1 議題名 「文化祭の出し物を決めよう」（第1学年・2学期）

#### 2 授業の実際

本実践は、「学級会に主体的に参画し、協調的な話し合いを図る生徒の育成」という研究主題のもと、学級会を通して話し合いの力や仲間の意見、考えを大切にすることを育てることを目指した。これまでの学級会では、議題設定や進行案の準備に時間を要し、また、授業では多様な意見の整理に手間取り、十分な話し合いの時間を確保することができないため、全員が納得する結論に至らないという課題があった。そこで、本研究の手立てとして、生成AI（Google Gemini）の活用を二つ考えた。

一つ目は、計画委員が事前アンケートの結果をもとに、生成AIを活用して議題案や進行案を作成することで、計画委員および教師の負担軽減を図った。具体的には、Google フォームで募集した生徒一人一人の意見を生成AIに集約させ、学級全体で話し合うべき議題案を計画委員に提示した。これにより、運営面での見通しを早期にもたせ、生徒自らが議題の決定や進行案の作成を進めていく主体性を引き出した。計画委員が学級会の成功に向け、自信をもって事前準備に臨む姿が見られた。

二つ目は、学級会の授業において教師が生徒一人一人の意見を生成AIに読み込ませ、多角的な視点から整理された「意見の表」として可視化することで、計画委員による意見集約の時間を短縮させた。具体的には、個々がGoogle フォームに入力した意見を教師が生成AIに読み込ませて即時に分類させ、「出し物のアイデア」「その理由」という項目で生徒へ提示した。これにより、生徒は自分とは異なる考えに気づき、議論の土台が整った状態で対話に入ることができた。また、教師が特定の意見を支持するのではなく、生成AIが整理した客観的な「意見の表」を話し合いの土台としたことで、一部の意見に偏らない公平な環境が整った。事後のアンケート結果からも、作業の効率化によって生まれた時間が、互いの考えをじっくりと聞き合う対話につながったことが確認できた。

以上の手立てを講じることで、「文化祭の出し物」について多角的な視点から一人一人が納得できる結論に向けて話し合って決定し、文化祭で生徒一人一人が当事者意識をもって主体的に出し物を運営する。そのための本時である。

#### (1) 手立て1について

＜事前準備における計画委員の役割＞

計画委員は中心となり、Google フォームを使って「学級会で話し合いたいこと」を全員に募集した。集まった意見を基に、学級全体でどの議題が今の自分たちにふさわしいかを考える話し合いを行い、文化祭が間近に迫っているという切実な必要感から「文化祭の出し物を決めよう」という議題を決定した。その後、生成AIが提案した進行案をそのまま使うのではなく、「自分たちのクラスなら、この順番の方が話しやすい」と学級の実態に合わせて自分たちで内容を修正し、本番に向け

て何度も司会練習に励むなど、運営面への主体的な参画を見せた。

#### <事前準備における教師の役割>

教師は、Google フォームを用いた事前アンケートを作成し、計画委員へ活用を促した。集まった生徒一人一人の意見を生成AIに読み込ませ、似た内容ごとにまとめさせて複数の議題案を作成した。その際、どの意見を参考にしたのかという「理由」も含め、分かりやすい議題名で提示するようプロンプト（指示文）を工夫した。また、学級会の進行案も生成AIで作成して提示した。このような事前準備により、客観的に整理された資料を素早く提示でき、計画委員の作業負担を減らすとともに、生徒が「自分たちの意見が反映されている」と実感するための土台を整えた。

議題名	提案の理由（ねらい）
① 絆を深める！文化祭の出し物とスローガンを決めよう	中学校で初の文化祭を成功させるため。全員が納得して参加できる内容を決め、クラスの団結力を高めていきます。
② 目指せ目標達成！学級目標のふりかえりと計画の作成	今のクラスの状態を再確認するため。「目標への努力」と「お祝い」をセットにし、メリハリあるクラスを目指します。
③ もっと楽しい学校生活へ！「新ルール」を作ろう	毎日の生活をより快適にするため。給食の音楽や遊びのルールを自分たちで決め、学校生活を自分たちの手で楽しくします。

図2 教師が計画委員に提示した議題案

#### <事前準備の生徒の姿>

生徒一人一人が学級をよりよくしたいという願いを自由に書き込んだことで、多様な思いが集まった。それらが生成AIによって可視化されたことで、生徒の中に「自分たちのための話し合い」と捉え直す姿が見られるようになった。その結果、それぞれの案のメリットを比べながら冷静に検討し、自ら進んで挙手をするなど、話し合いへの熱量は目に見えて高まっていった。また、初めて司会や板書などの役割を担当する生徒も、生成AIのサポートで当日の流れが明確になったことにより、自分の役割をはっきりとイメージできるようになり、自信をもって準備に取り組む姿へと変わっていった。

## (2) 手立て2について

#### <本時における計画委員の運営>

計画委員が中心となって話し合いを進める中で、生徒たちは「自分の意見が反映されている」という実感から当事者意識を高め、活動に主体的に参画した。全体では、計画委員自らが「みんなに納得してもらうには、他の意見も取り上げて話し合おう」といった声を上げ、仲間の意見を尊重しながら自らの考えを再確認する雰囲気を作り出した。最終的に「劇」と「ダンス」、二つの案が残ったが、計画委員が「反対意見はないか」と丁寧に問いかけ、多数派の案に少数派の意見を組み込む「劇の中にダンスを取り入れる」という結論を、全員が納得した上で導き出した。

#### <本時における教師の役割>

教師は、文部科学省のガイドラインに基づき、生成AIを活用して生徒の意見を客観的に可視化した。まず、Google フォームの活用において「3分間で入力完了」という時間設定を行い、アイデア出しの効率化と「意見の出しやすさ」を両立させた。グループ活動では机間指導を通し、少数意見も含めたすべての意見が大切であることを伝え、自他の意見のよさに気付かせる雰囲気づくり

に努めた。全員で合意形成を図る場面では「生成A Iの表はあくまで参考であり、最終的に決めるのは自分たち自身」と伝え、生成A Iを土台にしつつも、生徒自身の主体的な判断を促す重要な役割を担った。

#### <本時における生徒の姿>

生徒は、生成A Iによって提示された「意見の表」に自分の意見が反映されていることに驚きと喜びを感じ、当事者意識をもって主体的に参画した。小グループでは「表の中でどれがよいと思う?」「どうしてよいと思うの?」といった問いかけが自然に生まれ、可視化されたよさを互いに認め合うことで、感情的な対立にならず協調的に対話を深める姿へと変容していった。特に、協調的な話合いの場面では、匿名で提示された多数意見や少数意見を客観的に眺めることで、特定の意見に偏ることなく仲間の考えを捉え直した。学級全員の考えを土台に、納得がいくまで言葉を交わし、互いのよさを認め合いながら全員が前向きになれる答えを見いだす姿が見られた。

表1 一人一人の意見を可視化した「意見の表①」

出し物のアイデア	その理由
劇(演劇)	クラスの協力・団結を高めたい(みんなで一致団結したい、協力するのが楽しそう、絆が深まりそう) みんなで一つの作品を作り上げるのが楽しそうだから できるものの中で一番面白そうだから アニメなどの劇をやったら面白そうだから
ダンス	クラス全員で楽しめると思ったから 盛り上がりとおもったから
展示	やったら面白いかなと思ったから
クイズ大会	(特に理由の記載はなかったが、アイデアの一つとして挙がった)



図3 「意見の表①」を共有する場面

表2 合意形成に向けての「意見の表②」

多数派 or 少数派	出し物のアイデア	その理由
圧倒的多数派	劇(演劇)	「全員参加・協力」:裏方などもあるから、やりやすい。「楽しさ・仲」:クラスの仲が深まると思ったから。「面白さ・盛り上がり」:面白くて盛り上がりそう。
多数派	ダンス	「みんなで楽しめる」から。
少数派	(特定アイデアなし)	特にやりたいものがない、という意見も一部ある。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 成果

文科省のガイドラインに基づき、教師が生成A Iを利活用し、生徒の意見を客観的に可視化した。これにより、生徒は自らの意見が反映されているという実感を持ち、当事者意識をもって学級会へ主体的に参画する姿が見られた。また、生徒は多角的な視点や少数意見に自ら気づき、感情的な対立にならず協調的な話合いとなった。

#### 2 課題

教師の生成A Iへの指示によって、話合いを活性化させる手立ては多様であり、教師がどのような話合いをさせたいか明確な方針や意図が必要である。教師の生成A Iの利活用は一つの「手段」であり、生徒が自分たちで決めたという実感を伴うこと、決めたことに意思をもって取り組むという学習過程が大切である。

#### IV 資料（プロンプト入力文）

P 3-図 2 を生成するために教師が入力したプロンプト

中学1年生の学級会で使う議題を考えます。まず、下の意見一覧を似た内容ごとにまとめてください。次に、その内容をもとに、今の学級にぴったりの議題を3つ提案してください。その際、どの意見を参考にしたのかという理由も一緒に書き、文化祭の出し物を決めようのように分かりやすい名前にしてください。

P 4-表 1 を生成するために教師が入力したプロンプト

中学1年生の学級会で、文化祭の出し物を決めます。これから渡す生徒全員の意見を、似た内容ごとに整理して、1枚の「意見の表①」にまとめてください。その際、少数意見も漏らさず含めることで、生徒一人一人が自分の意見が反映されていると実感できる表にしてください。

P 4-表 2 を生成するために教師が入力したプロンプト

もう一度、生徒全員の意見を渡します。今度は学級全体の傾向が分かるよう、意見を多数派と少数派に整理して、理由と合わせて1枚の「意見の表②」としてまとめてください。この表をもとに、これから学級全員で合意形成に向けた話し合いを行います。生徒が互いのよさを認め合えるような、分かりやすい表にしてください。

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

各社の商標又は登録商標 Google フォーム、Google Gemini は、Google LLC の商標又は登録商標です。なお、本文中には TM マーク、®マークは明記していません。